

5 : 「肝炎ウイルス」について

(2) 肝炎ウイルス検査

**問20.** 肝炎ウイルス検査を受けるとしたら、どのような機会に受けてくださいか。

【回答の選択肢】 (ひとつ選択)

「住民(区市町村)健診と合わせて受けてたい」

「職場の健診と合わせて受けてたい」

「人間ドックで受けてたい」

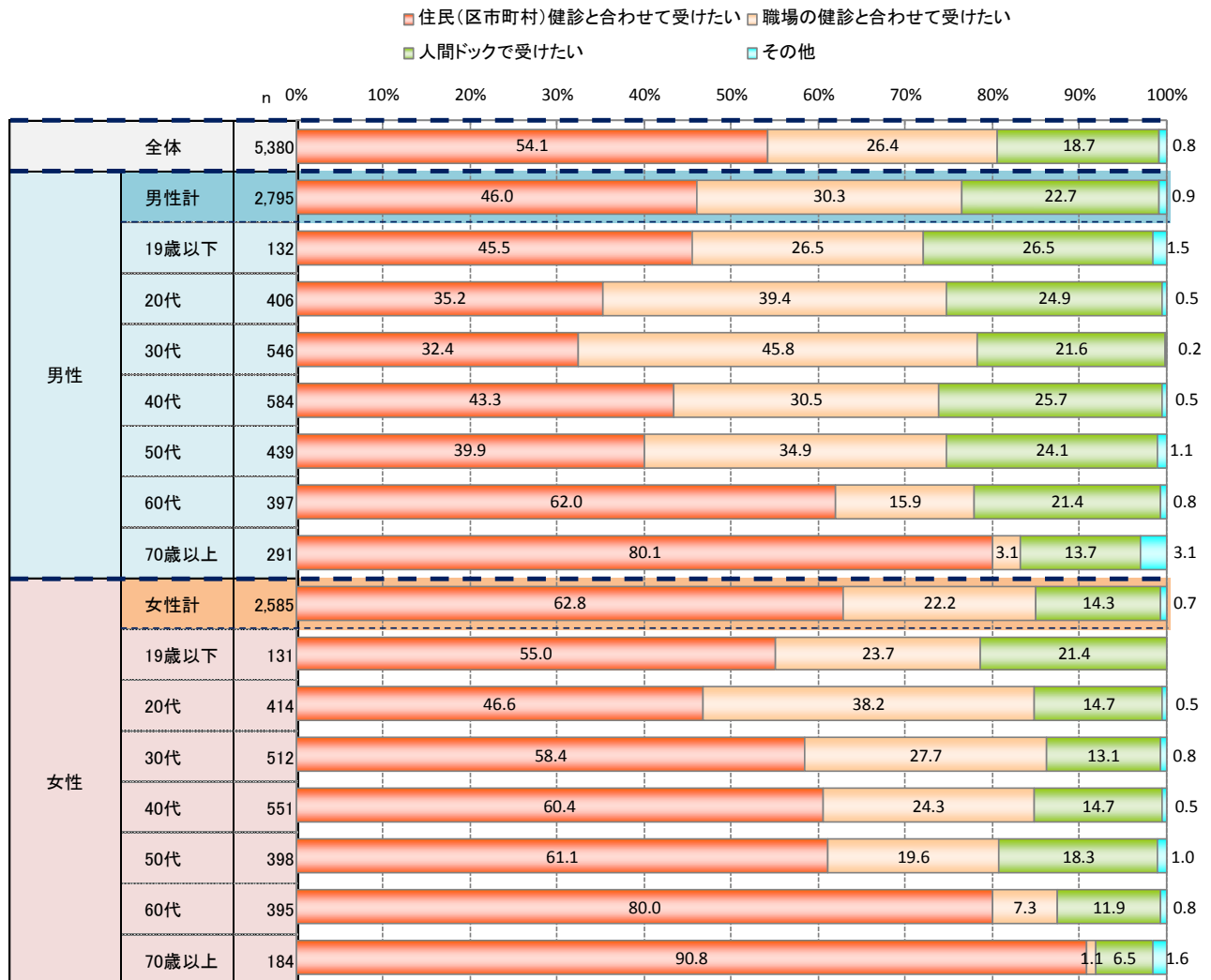
「その他(自由回答)」

【全体】

- ・ 「住民(区市町村)健診と合わせて受けてたい」が54.1%で過半数に達し、次いで、「職場の健診と合わせて受けてたい」(26.4%)、「人間ドックで受けてたい」(18.7%)と続く。

【性別×年代別】

- ・ 男女別では、「住民(区市町村)健診と合わせて受けてたい」は、男性が46.0%と50%弱であるのに対し、女性は62.8%であり、女性の方が16.8ポイント多い。
- ・ 「職場の健診と合わせて受けてたい」は、男性では「20代」から「50代」まで30%を超えているが、女性では「20代」のみである。
- ・ 女性は、「住民(区市町村)健診と合わせて受けてたい」が最も多く、「20代」を除いて50%を超えている。



6 : 「がん教育」について  
 (1) 「がん教育」の必要性

**問21.** 多くの人ががんにかかっているにも関わらず、大人も含めてがんに関する正しい知識を得る機会は多くはありません。

そのため、学校での健康教育の中で、子どもの頃から、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう、国において「がん教育」の実施に向けた取組が進められています。

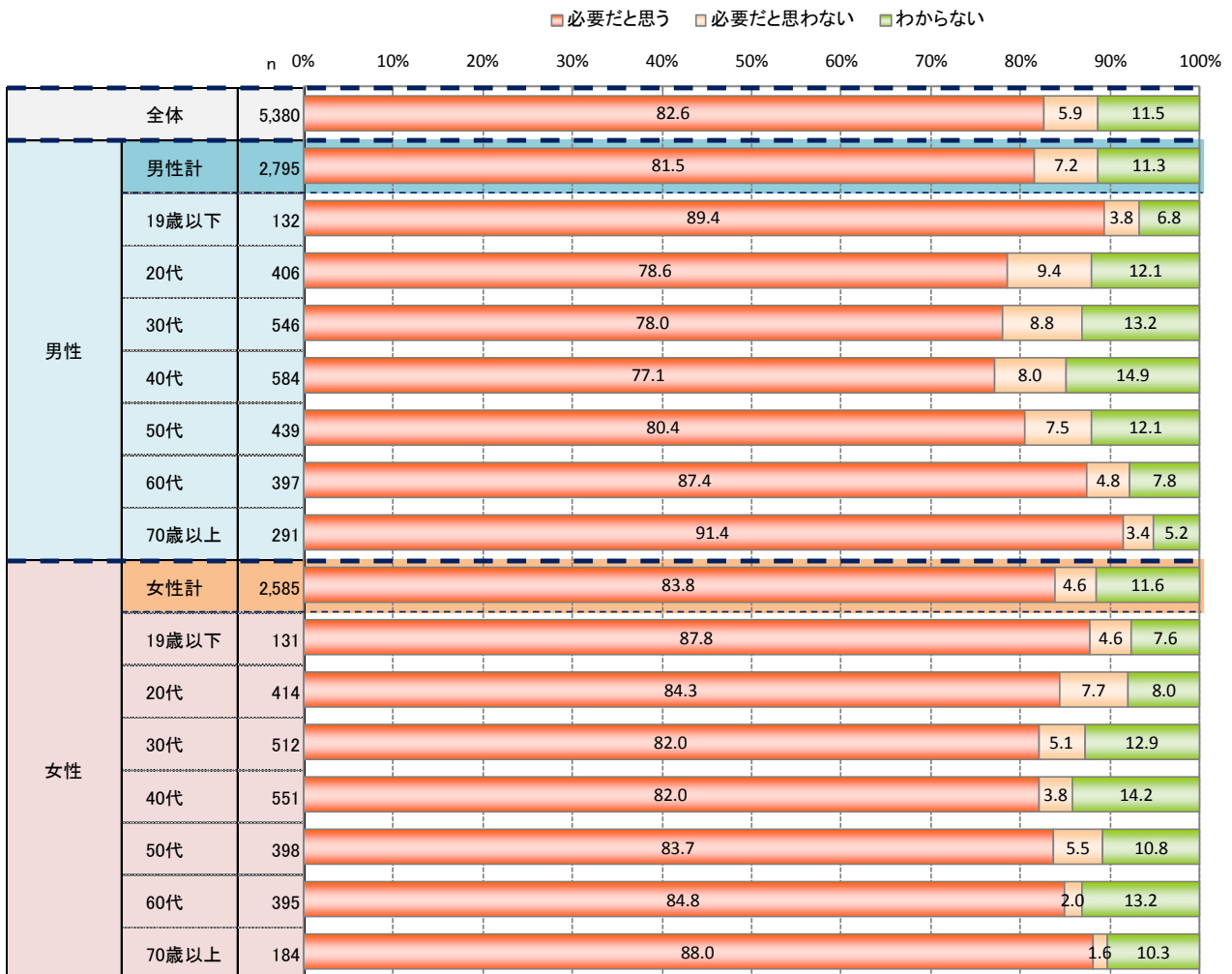
こうした教育は必要だと思いますか

【全体】

- 「必要だと思う」という回答が 82.6%と全体の 8 割以上を占め、「わからない」という回答が 11.5%、「必要だと思わない」という回答が 5.9%である。

【性別×年代別】

- 男女別では、「必要だと思う」は、男性が 81.5%、女性 83.8%であり、女性の方が 2.3 ポイント多い。
- 男女とも、「必要だと思う」は、「70 歳以上」（男性：91.4%、女性：88.0%）が最も多く、次いで多いのは「19 歳以下」（男性：89.4%、女性：87.8%）となり、中間の年代でやや少なくなっている。
- 「わからない」が最も多いのは、男女ともに「40 代」であり、男性は 14.9%、女性は 14.2%である。



6 : 「がん教育」について

(1) 「がん教育」の必要性

**問21-2.** 問21で「必要だと思う」と回答した方にお聞きします。

がんを正しく知り（理解し）、予防に活かすために、子どもに対する「がん教育」をいつから始めるのがふさわしいと思いますか。ふさわしいと思う時期を選択してください。

【回答の選択肢】（ひとつ選択）

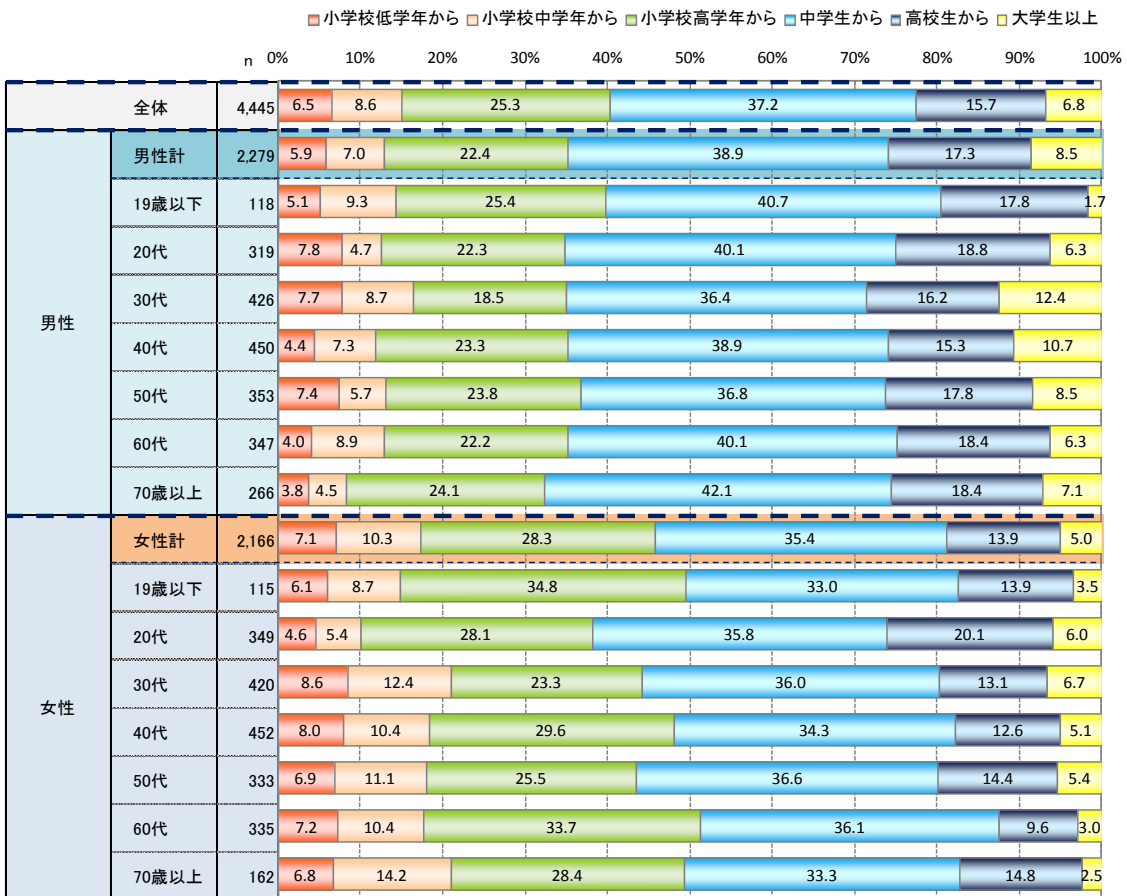
- 「小学校低学年から」
- 「小学校中学年から」
- 「小学校高学年から」
- 「中学生から」
- 「高校生から」
- 「大学生以上」

【全体】

- ・ 問21で必要だと思うと回答した人（回答数4,445名）に、「がん教育」を始めるのにふさわしい時期について尋ねたところ、「中学生から」が37.2%で最も多い。次いで、「小学校高学年から」（25.3%）、「高校生から」（15.7%）、「小学校中学年から」（8.6%）、「大学生以上」（6.8%）、「小学校低学年から」（6.5%）と続く。

【性別×年代別】

- ・ 男女別では、男女ともに「中学生から」が最も多く、次いで、「小学校高学年から」、「高校生から」と続く。
- ・ 「小学校低学年から」、「小学校中学年から」、「小学校高学年から」の3つを合わせた「小学校から」は、男性が35.3%、女性は45.7%であり、女性の方が10.4ポイント多い。
- ・ 「小学校から」と「中学生から」を比べると、女性では全年代で「小学校から」の方が多く、男性では「50代」を除く全年代で「中学生から」の方が多く。



7 : 「がん」にかかった場合、整っていることが望ましい環境

**問 2 2.** あなた自身や家族が「がん」になった場合、どういった環境が整っていることが望ましいと思いますか。次の項目から3つ選択してください。

**【回答の選択肢】**（複数選択可）

- 「専門的な治療を提供する機器や施設を備えた病院が整備されていること」
- 「がん医療について専門的な知識を有する医師や看護師などの医療従事者がいること」
- 「がんによる身体的苦痛や精神的な不安をすぐに軽減してくれること」
- 「自分の症状や治療法について、他の病院の医師に意見を求められる（セカンドオピニオン）体制が整っていること」
- 「がん医療に関する情報を容易に収集できる窓口や手段が整っていること」
- 「がん患者や家族が、治療法や不安なことを気軽に相談できる窓口があること」
- 「高度ながん医療を提供する病院、地域の病院、かかりつけ医（身近で気軽に相談できる医療機関）などが連携し、安心して受診や転院ができる体制が整っていること」
- 「住み慣れた家庭や地域で療養ができるような在宅医療の体制が整っていること」
- 「自分が望む療養場所が、自分の意志で選択できること」

**【全体】**

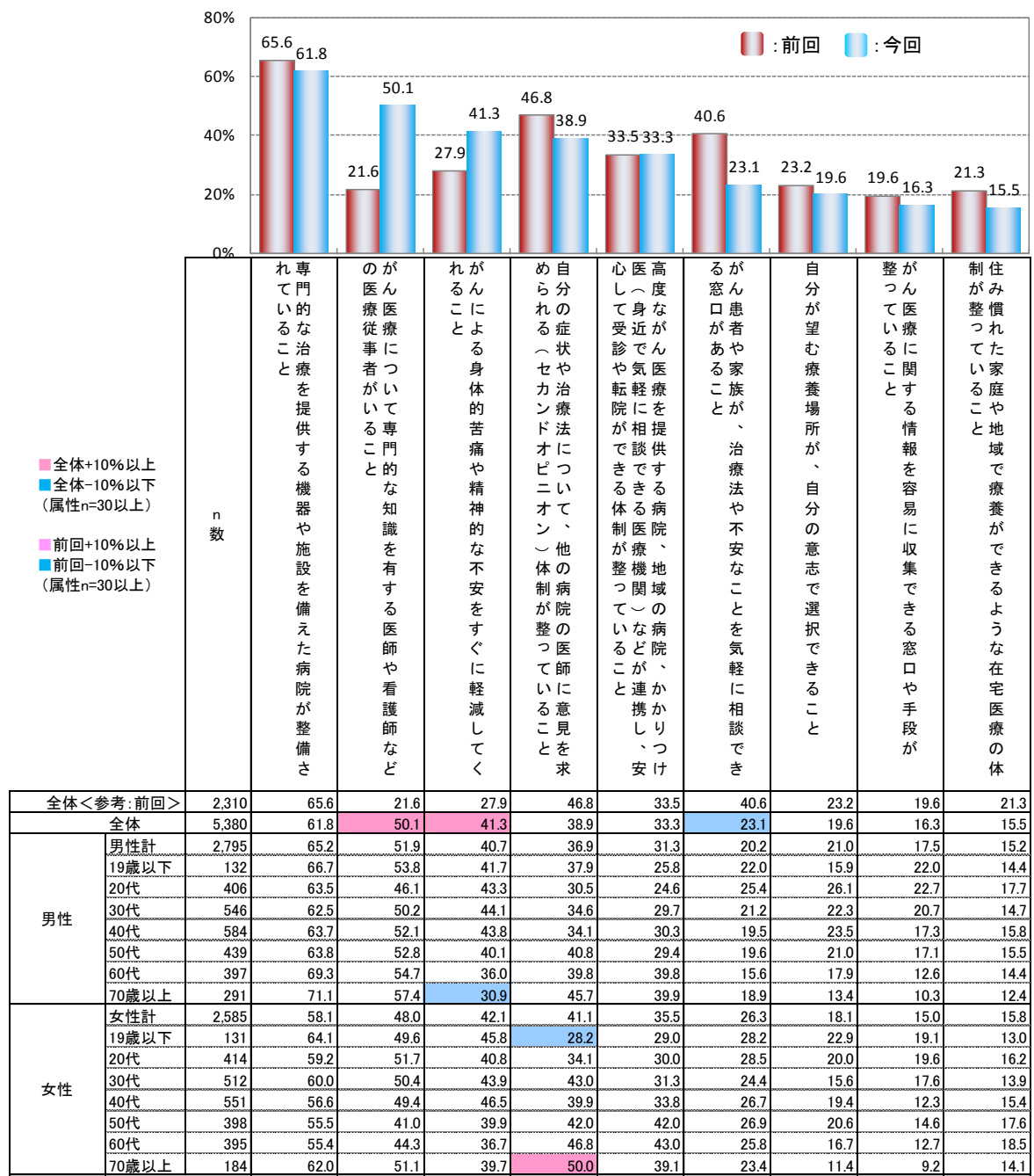
- ・ 「専門的な治療を提供する機器や施設を備えた病院が整備されていること」が61.8%で最も多く、次いで、「がん医療について専門的な知識を有する医師や看護師などの医療従事者がいること」（50.1%）、「がんによる身体的苦痛や精神的な不安をすぐに軽減してくれること」（41.3%）と続く。

**【性別×年代別】**

- ・ 全ての性別・年代別で「専門的な治療を提供する機器や施設を備えた病院が整備されていること」が最も多く、50%を超えている。
- ・ 「自分の症状や治療法について、他の病院の医師に意見を求められる（セカンドオピニオン）体制が整っていること」は、「女性：70歳以上」では50.0%であるが、「女性：19歳以下」では28.2%であり、女性はセカンドオピニオン体制が整っていることが望ましい環境であるという考えについて、世代間で相違が見られる。

**【前回調査との比較】**

- ・ 「がん医療について専門的な知識を有する医師や看護師などの医療従事者がいること」及び「がんによる身体的苦痛や精神的な不安をすぐに軽減してくれること」は、それぞれ、21.6%（前回）→50.1%（今回）、27.9%（前回）→41.3%（今回）と上がった。
- ・ 一方、「がん患者や家族が、治療法や不安なことを気軽に相談できる窓口があること」は、前回は40.6%であったが、今回は23.1%と、17.5ポイント下がった。



8 : 「がん医療」について  
(1) 「がん医療」の進歩

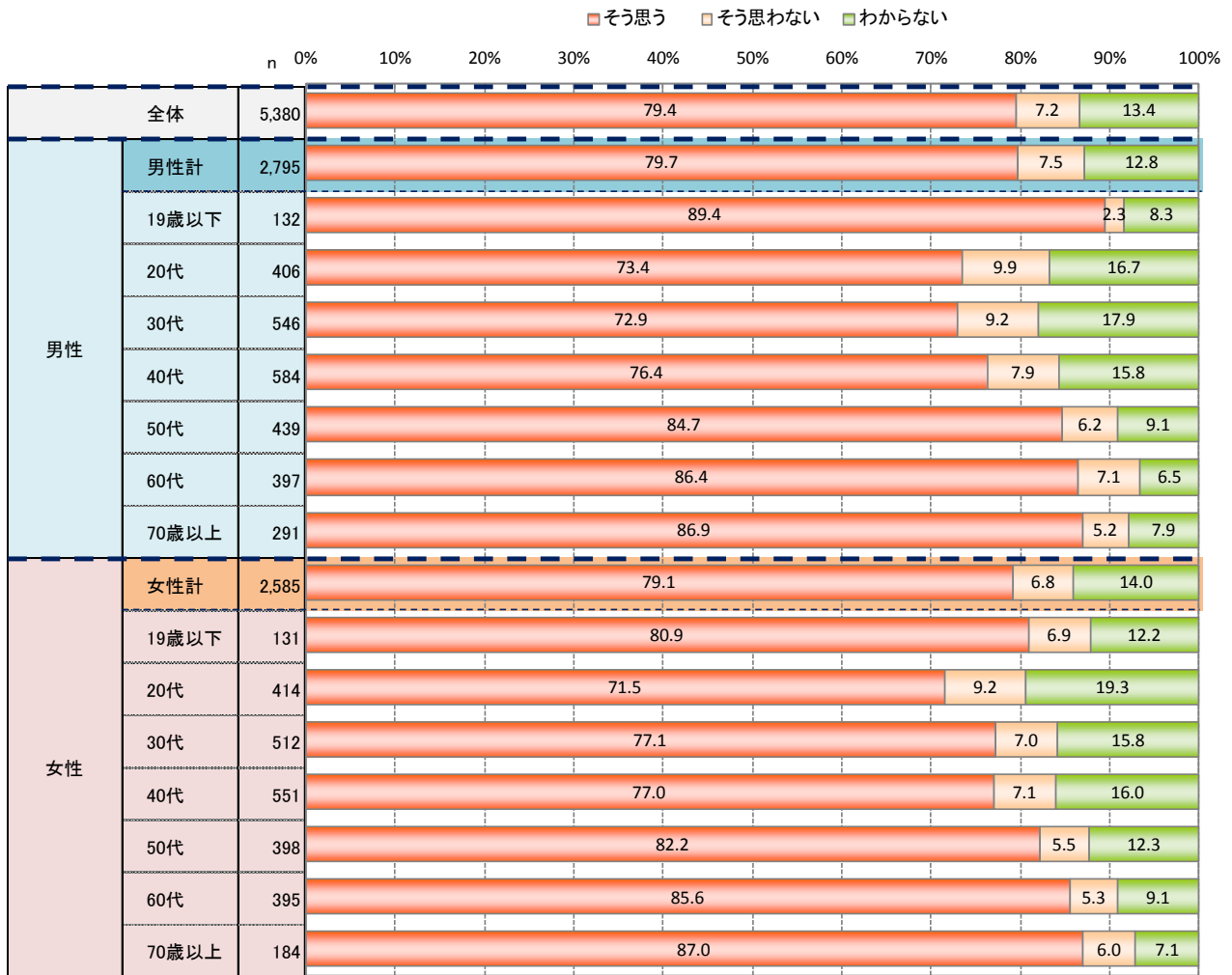
**問23.** がん医療は以前よりも進歩していると感じますか（思いますか）。

**【全体】**

- ・ 「そう思う」が79.4%と全体の約80%を占め、「がん」医療は以前よりも進歩しているという考えが大多数である。次いで、「わからない」（13.4%）、「そう思わない」（7.2%）と続く。

**【性別×年代別】**

- ・ 「そう思う」は、男性が79.7%、女性は79.1%であり、男女別ではほぼ変わらない。
- ・ 「そう思う」は、「男性：19歳以下」「男性：20代」「女性：19歳以下」「女性：40代」を除いて、男女とも年代が上がるにつれて多くなる。
- ・ 「女性：20代」は、「そう思う」が71.5%で、性別、年代別で最も少なく、「わからない」が19.3%で最も多い。



9 : 「緩和ケア」について

**問24.** がんの治療においては、緩和ケアも重要な治療です。

「緩和ケア」について、どのようなイメージがありますか。

**【回答の選択肢】**（複数選択可）

「『緩和ケア』は、がんやがんの治療による身体の痛みを軽減することである」

「『緩和ケア』は、がんの治療などによる身体の痛みだけでなく、不安などの精神的苦痛や、医療費・仕事などに関する社会的苦痛による痛みやつらさを軽減することである」

「『緩和ケア』は、がんが進行し、治療ができなくなった場合の最後の手段である」

「『緩和ケア』は、がんと診断された時から受けられるものである」

「がんの治療と『緩和ケア』は、どちらかしか受けられない」

「『緩和ケア』とはホスピスのことである」

「『緩和ケア』を受けるには、高額な費用がかかる」

「『緩和ケア』では、モルヒネなどの麻薬を用いるため、中毒症状がみられるようになる」

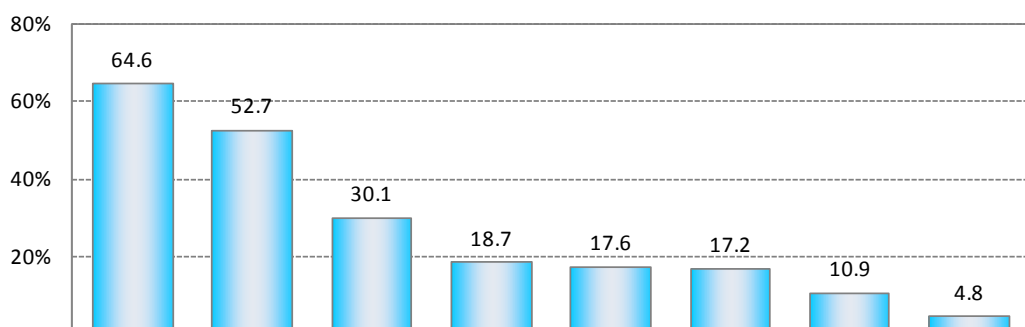
**【全体】**

- ・ 「『緩和ケア』は、がんやがんの治療による身体の痛みを軽減することである」が64.6%で最も多い。次いで、「『緩和ケア』は、がんの治療などによる身体の痛みだけでなく、不安などの精神的苦痛や、医療費・仕事などに関する社会的苦痛による痛みやつらさを軽減することである」(52.7%)、「『緩和ケア』は、がんが進行し、治療ができなくなった場合の最後の手段である」(30.1%)と続く。

**【性別×年代別】**

- ・ 男女とも、「70歳以上」では、「『緩和ケア』は、がんの治療などによる身体の痛みだけでなく、不安などの精神的苦痛や、医療費・仕事などに関する社会的苦痛による痛みやつらさを軽減することである」が最も多い。
- ・ 「『緩和ケア』は、がんが進行し、治療ができなくなった場合の最後の手段である」は全体では30.1%であるが、性別、年代別では、「男性：20代」では19.7%、「女性：19歳以下」では19.8%と全体に比べて少ない。





■ 全体+10%以上  
■ 全体-10%以下  
 (属性n=30以上)

n 数	「緩和ケア」は、がんやがんの治療による身体	「緩和ケア」は、がんの治療などによる身体	「緩和ケア」は、がんが進行し、治療がで	「緩和ケア」を受けると、高額な費用がか	「緩和ケア」は、がんが診断された時から受け	「緩和ケア」とはホスピスのことである	「緩和ケア」では、モルヒネなどの麻薬を用い	「緩和ケア」は、どちらかしか受
全体<参考:前回>	5380	21.9	37.2	12.9	-	-	-	3.5

今回調査は複数選択形式であるが、前回調査はひとつを選択。また、前回調査は選択肢に「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」、「聞いたことがない」があった。前回調査と今回調査で回答形式が違うため、数値の比較は行わない。

	n 数	64.6	52.7	30.1	18.7	17.6	17.2	10.9	4.8	
全体	5,380	64.6	52.7	30.1	18.7	17.6	17.2	10.9	4.8	
男性	男性計	2,795	62.5	50.9	27.8	18.1	18.0	14.1	11.9	4.8
	19歳以下	132	63.6	44.7	27.3	17.4	18.2	11.4	12.1	4.5
	20代	406	61.3	46.8	19.7	20.0	19.7	11.1	12.1	6.2
	30代	546	61.7	46.5	27.1	19.2	15.4	13.9	14.5	6.0
	40代	584	64.7	44.9	28.4	19.9	14.7	16.4	11.0	3.8
	50代	439	65.1	50.6	28.9	15.7	14.8	13.9	11.2	5.2
	60代	397	60.2	60.2	29.2	15.1	22.4	13.4	11.6	4.0
	70歳以上	291	60.1	68.0	35.7	17.9	25.4	16.5	10.0	3.1
女性	女性計	2,585	66.8	54.6	32.6	19.4	17.3	20.5	9.9	4.9
	19歳以下	131	64.9	42.7	19.8	17.6	16.0	10.7	6.1	2.3
	20代	414	59.4	43.5	29.5	18.1	16.9	18.8	12.3	7.5
	30代	512	71.3	50.6	31.1	19.7	14.6	16.8	9.6	5.1
	40代	551	70.1	53.7	35.4	20.1	16.0	21.2	11.3	4.5
	50代	398	67.3	55.0	33.7	19.8	14.3	24.4	9.5	4.0
	60代	395	63.3	67.6	35.4	19.5	19.2	22.8	6.8	4.3
	70歳以上	184	69.6	73.4	36.4	19.6	32.6	26.1	12.0	4.3

## 10：人生の最終段階の療養場所

**問25.** あなたがもし「がん」になり、人生の最終段階（終末期）を迎えることとなった場合、終末期をどこで過ごしたいと思いますか。

**【回答の選択肢】**（ひとつ選択）

「病院」

「緩和ケア病棟（ホスピス）」

「自宅」

「その他（自由回答）」

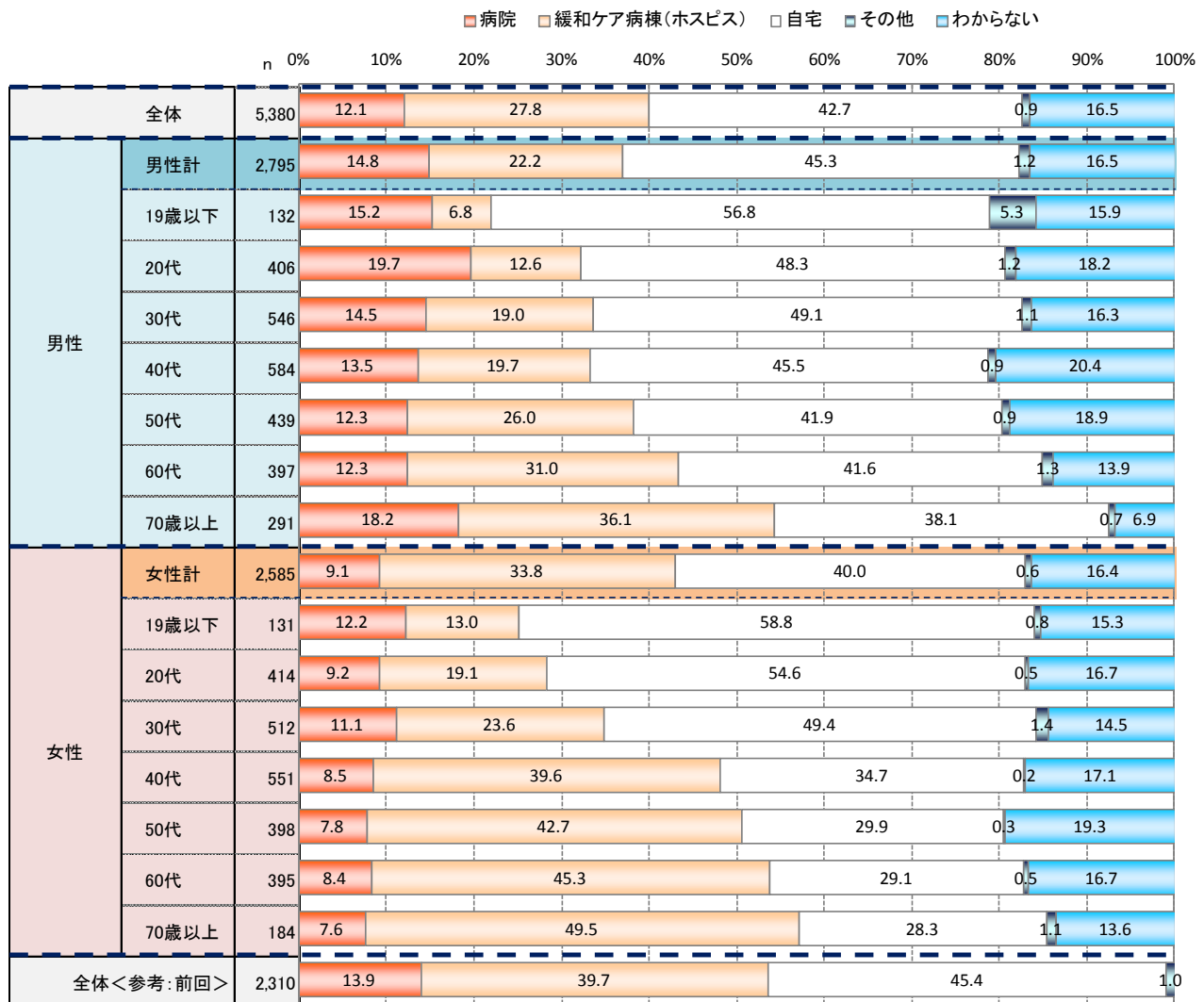
「わからない」

**【全体】**

- ・ 「自宅」が42.7%で最も多い。次いで、「緩和ケア病棟（ホスピス）」（27.8%）、「わからない」（16.5%）、「病院」（12.1%）と続く。

**【性別×年代別】**

- ・ 「自宅」は、男女ともに「19歳以下」が最も多く、男性は56.8%、女性は58.8%と50%を超えた。若い世代ほど、終末期を過ごしたい場所として、「自宅」が多い傾向にある。
- ・ 逆に「緩和ケア病棟（ホスピス）」は、年代が上がるにつれて多くなり、「男性：70歳以上」は36.1%、「女性：70歳以上」は49.5%である。



※ 前回調査では、「わからない」が回答の選択肢にはなかったため、数値の比較は行わない。

11：「小児がん」について

**問26.** 「小児がん」とは、15歳以下の小児に発生するがんの総称です。

小児がんは、大人がかかるがんとは異なる特徴が多くあります。小児がんに関する次のことについて、知っていますか。

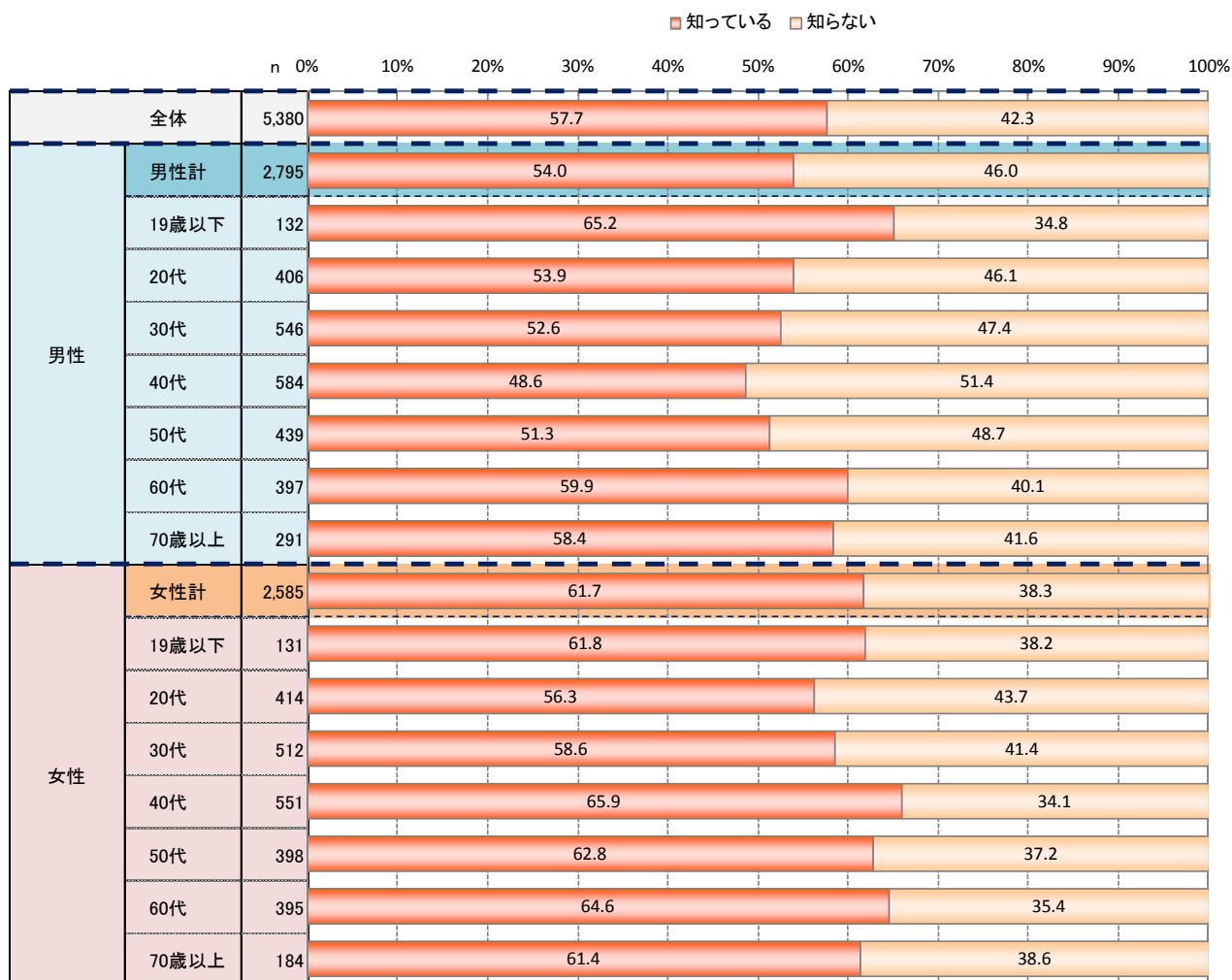
(1) 小児がんは、大人のがんに比べてかかる人が少なく、希少ながんである

【全体】

- ・ 「知っている」が57.7%と50%を超え、「知らない」は42.3%である。

【性別×年代別】

- ・ 男女別では、「知っている」は、男性が54.0%、女性が61.7%であり、女性の方が7.7ポイント多い。
- ・ 年代別では、男性で「知っている」が最も多いのは「19歳以下」の65.2%、最も少ないのは「40代」の48.6%である。また、「男性：40代」は、性別、年代別で唯一、「知っている」が50%未満である。
- ・ 一方、女性で「知っている」が最も多いのは、「40代」の65.9%で、「男性：40代」より17.3ポイント多い。



11：「小児がん」について

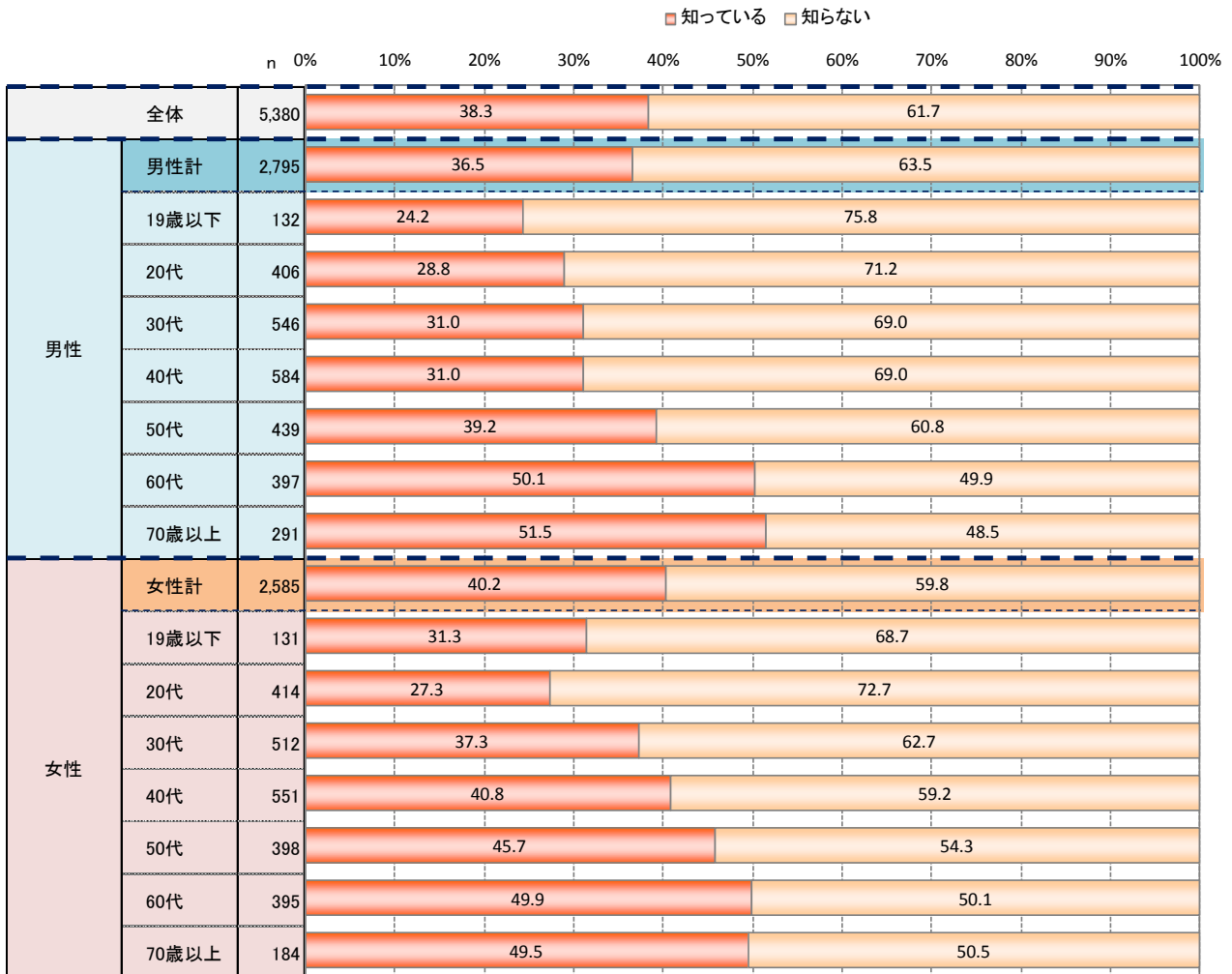
**問26.** 「小児がん」とは、15歳以下の小児に発生するがんの総称です。  
 小児がんは、大人がかかるがんとは異なる特徴が多くあります。小児がんに関する次のことについて、知っていますか。  
 (2) 大人に多い胃がんや肺がんなどは、小児がんではほとんど見られない

【全体】

- ・ 「知っている」は38.3%にとどまり、「知らない」が61.7%と50%を超えた。

【性別×年代別】

- ・ 男女別では、「知っている」は、男性が36.5%、女性が40.2%であり、女性の方が3.7ポイント多い。
- ・ 年代別では、「男性：19歳以下」が24.2%、「男性：20代」が28.8%、「女性：20代」が27.3%であり少ない。
- ・ 一方、年代が上がるにつれて認知度は高まり、「男性：60代」「男性：70歳以上」では「知っている」が50%を超えた。また、「女性：60代」は49.9%、「女性：70歳以上」は49.5%であり、「60代」以上の年代では男女ともに「知っている」が半数近い。



11 : 「小児がん」について

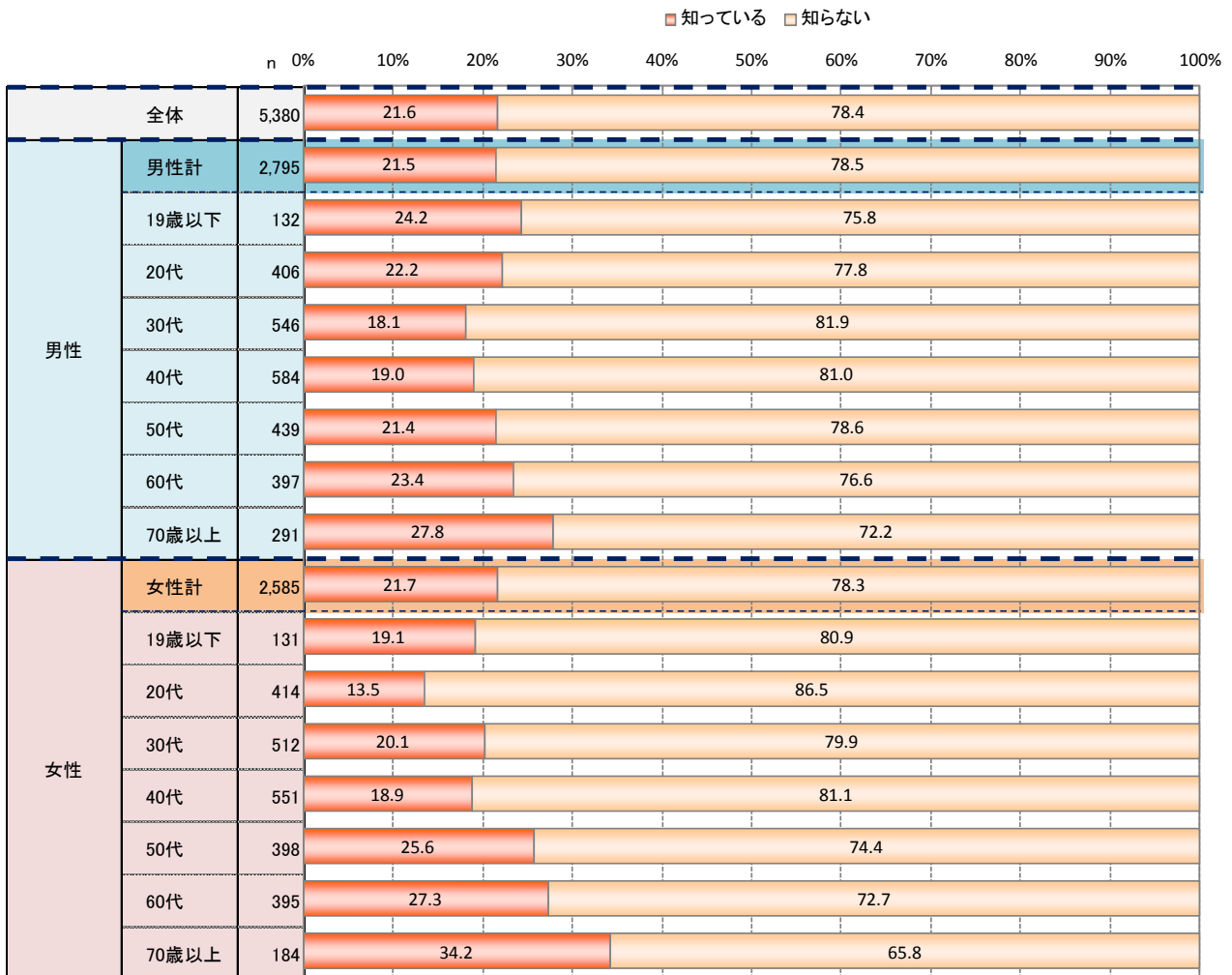
**問26.** 「小児がん」とは、15歳以下の小児に発生するがんの総称です。  
 小児がんは、大人がかかるがんとは異なる特徴が多くあります。小児がんに関する次のことについて、知っていますか。  
 (3) 小児がんは医療の進歩により、かなり(70~80%)が治ると言われている

【全体】

- ・ 「知っている」は21.6%にすぎず、「知らない」が78.4%と全体の約4分の3超を占めている。

【性別×年代別】

- ・ 男女別では、「知っている」は、男性が21.5%、女性が21.7%であり、性別による認知度の目立った差は見られない。
- ・ 年代別では、男性の「知っている」は「30代」の18.1%が最も少なく、「70歳以上」の27.8%が最も多い。一方、女性は「20代」の13.5%が最も少なく、「70歳以上」の34.2%が最も多い。
- ・ 「20代」で男女別に比べると、「知っている」は、男性が22.2%であるが、女性は13.5%であり、男性の方が8.7ポイント多い。



11：「小児がん」について

**問26.** 「小児がん」とは、15歳以下の小児に発生するがんの総称です。

小児がんは、大人がかかるがんとは異なる特徴が多くあります。小児がんに関する次のことについて、知っていますか。

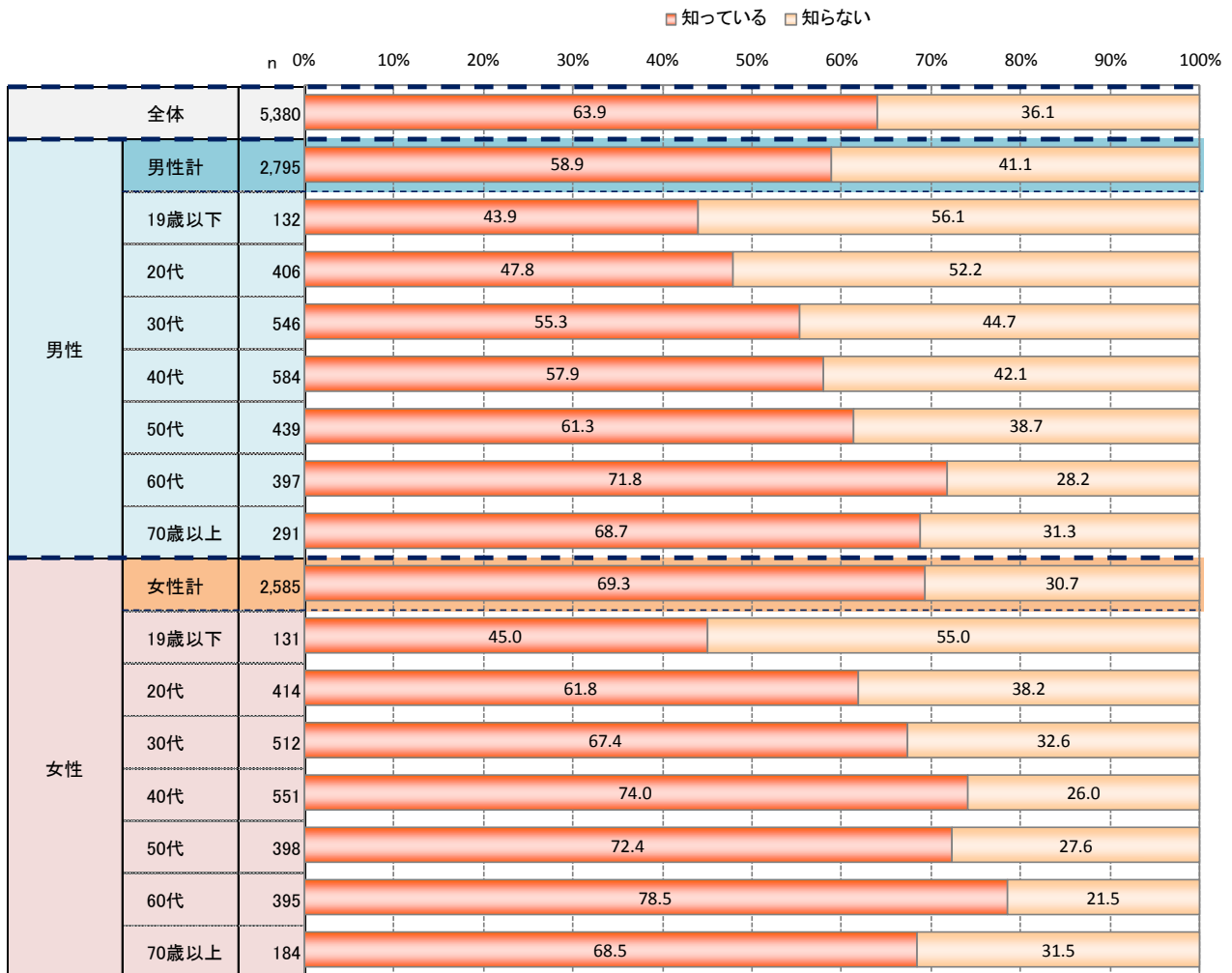
(4) 小児がんは大人のがんに比べて進行が速い

【全体】

- 「知っている」は63.9%と全体の3分の2近くまで達し、「知らない」が36.1%である。

【性別×年代別】

- 男女別では、「知っている」は、男性が58.9%、女性が69.3%であり、女性の方が10.4ポイント多い。
- 年代別では、男性の「知っている」は、「19歳以下」の43.9%が最も少なく、年代が上がるにつれて多くなるが、「60代」の71.8%が最も多く、「70歳以下」は68.7%である。
- 女性の「知っている」は、「19歳以下」を除き全年代で60%を超えている。しかし、「19歳以下」は45.0%であり、他の年代と比べて認知度に差がある。「男性：19歳以下」も「知っている」が43.9%と50%を下回っており、「19歳以下」は男女ともに「小児がんは大人のがんに比べて進行が速い」ことが比較的認知されていない。



11 : 「小児がん」について

**問26.** 「小児がん」とは、15歳以下の小児に発生するがんの総称です。

小児がんは、大人がかかるがんとは異なる特徴が多くあります。小児がんに関する次のことについて、知っていますか。

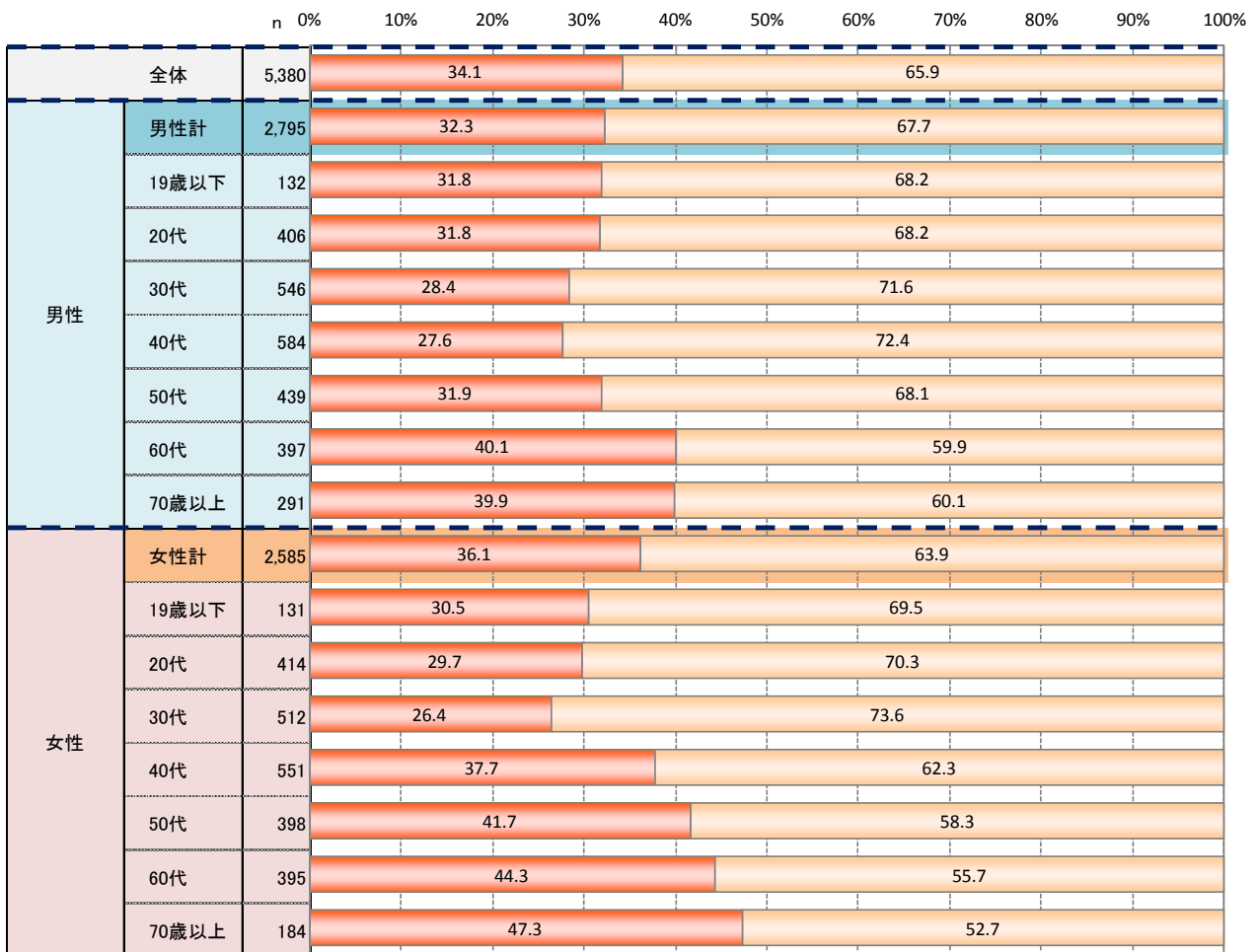
(5) 小児がん患者では、薬や放射線などの治療による副作用により、治療が終わったあとに、成長や神経麻痺、合併症が現れたり、新たながんが引き起こされることがある

**【全体】**

- ・ 「知っている」が34.1%と全体の3分の1強にとどまり、「知らない」が65.9%と3分の2近くを占めている。

**【性別×年代別】**

- ・ 男女別では、「知っている」は、男性が32.3%、女性は36.1%であり、女性の方が3.8ポイント多い。
- ・ 年代別では、男女ともに「30代」が30%未満である。また、「男性：40代」「女性：20代」も30%未満である。
- ・ 女性では、「知っている」が「50代」より上の年代で40%を超え、「70歳以上」では47.3%であり最も多い。





## 12：「がん」に関する情報収集

**問27.** あなたやあなたの身近な人がもし、がんになられた場合、がんに関する情報をどのように収集すると思われますか。

**【回答の選択肢】**（ひとつ選択）

「インターネット」

「出版物（書籍・新聞等）」

「テレビ」

「その他（自由回答）」

### 【全体】

- ・ 「インターネット」が82.5%で最も高く、次いで、「出版物（書籍・新聞等）」（10.8%）、「テレビ」（4.3%）と続く。

### 【性別×年代別】

- ・ 男女別では、「インターネット」は、男性が81.1%、女性は83.9%であり、女性の方が2.8ポイント多い。
- ・ 年代別では、「30代」「40代」「50代」では「インターネット」が男女ともに80%を超えている。一方、「19歳以下」「20代」「70歳以上」では男女ともに80%未満である。
- ・ 「テレビ」は、最も多い「40代：男性」でも6.7%であり、女性は全ての年代で5%未満である。

■インターネット ■出版物(書籍・新聞等) ■テレビ ■その他

n 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



## 12 : 「がん」に関する情報収集

**問27-2.** 問27で「インターネット」と回答した方にお聞きします。

あなたは、どのようなウェブサイトを確認すると思われますか。

**【回答の選択肢】（3つまで選択可）**

「行政のウェブサイト」

「がんの専門病院やがんの治療実績のある病院のウェブサイト」

「医師や学者が執筆したウェブサイト」

「がん経験者や患者団体のウェブサイト」

「がんに関する情報を集める様々な情報をとりまとめたウェブサイト」

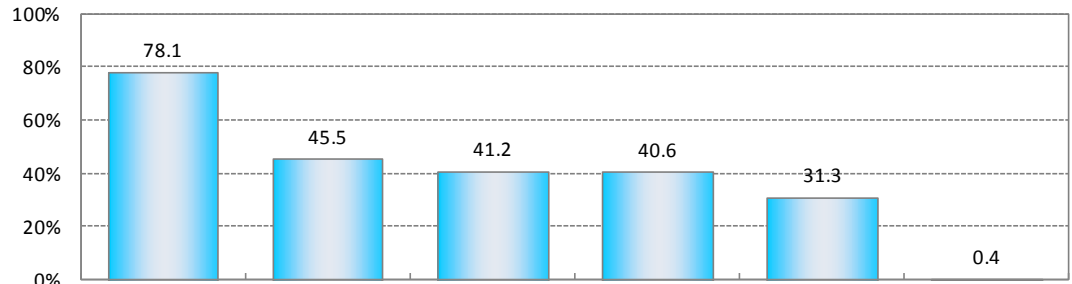
「その他（自由回答）」

### 【全体】

- ・ 問27で「インターネット」と回答した人（4,436名）にどのようなウェブサイトを確認するかを尋ねたところ、「がんの専門病院やがんの治療実績のある病院のウェブサイト」が78.1%で最も多い。次いで、「がん経験者や患者団体のウェブサイト」（45.5%）、「がんに関する情報を集める様々な情報をとりまとめたウェブサイト」（41.2%）、「医師や学者が執筆したウェブサイト」（40.6%）と続き、「行政のウェブサイト」は31.3%である。

### 【性別×年代別】

- ・ 男女別では、「がんの専門病院やがんの治療実績のある病院のウェブサイト」は、男性が76.5%、女性は79.8%であり、女性の方が3.3ポイント多い。
- ・ 「行政のウェブサイト」は、全体では31.3%であるが、男性の「19歳以下」で50.0%、「20代」で55.6%、「30代」で42.2%と、若い男性では比較的多い。
- ・ 一方、「がん経験者や患者団体のウェブサイト」は、女性の「19歳以下」が57.4%、「20代」が56.4%であり、若い女性では比較的多い。



■ 全体+10%以上  
■ 全体-10%以下  
 (属性n=30以上)

		n 数	サ イ ト の ウ ェ ブ	病 院 の ウ ェ ブ	が ん の 専 門 治 病	ウ ェ ブ サ イ ト	が ん の 経 験 者 の ウ ェ ブ	様 々 な 情 報 を 集 め る ウ ェ ブ	情 報 に 関 する ウ ェ ブ	執 業 者 や 学 者 の ウ ェ ブ	サ イ ト の ウ ェ ブ	そ の 他
全体		4436	78.1	45.5	41.2	40.6	31.3	0.4				
男性	男性計	2266	76.5	38.1	36.1	43.5	37.8	0.4				
	19歳以下	94	72.3	41.5	30.9	48.9	50.0	1.1				
	20代	324	70.7	29.3	29.9	47.5	55.6	-				
	30代	455	71.4	36.7	37.1	39.1	42.2	0.7				
	40代	496	75.0	38.7	37.3	40.3	34.5	0.4				
	50代	365	79.2	39.2	33.7	45.5	34.8	0.8				
	60代	315	84.8	41.3	36.8	44.1	26.3	-				
70歳以上	217	84.8	44.7	45.2	47.0	26.3	-					
女性	女性計	2170	79.8	53.2	46.5	37.6	24.6	0.4				
	19歳以下	101	70.3	57.4	33.7	45.5	33.7	-				
	20代	328	74.1	56.4	38.7	40.2	29.3	-				
	30代	439	76.8	51.9	44.9	36.0	25.5	0.2				
	40代	487	80.9	55.4	48.9	31.0	24.8	0.4				
	50代	350	84.3	52.6	46.0	37.4	22.3	0.6				
	60代	331	83.1	51.1	55.3	42.3	17.5	0.9				
70歳以上	134	87.3	45.5	51.5	43.3	25.4	-					

13：「全国がん登録」について  
 (1)「全国がん登録」の認知度

**問28.**「全国がん登録」とは、医療機関等から全国のがんの罹患情報等を集約し、がんの発病、死亡に至るまでの情報を収集・分析することによって、予防や検診も含めたがん対策の効果的な計画・企画や評価に役立てるものです。

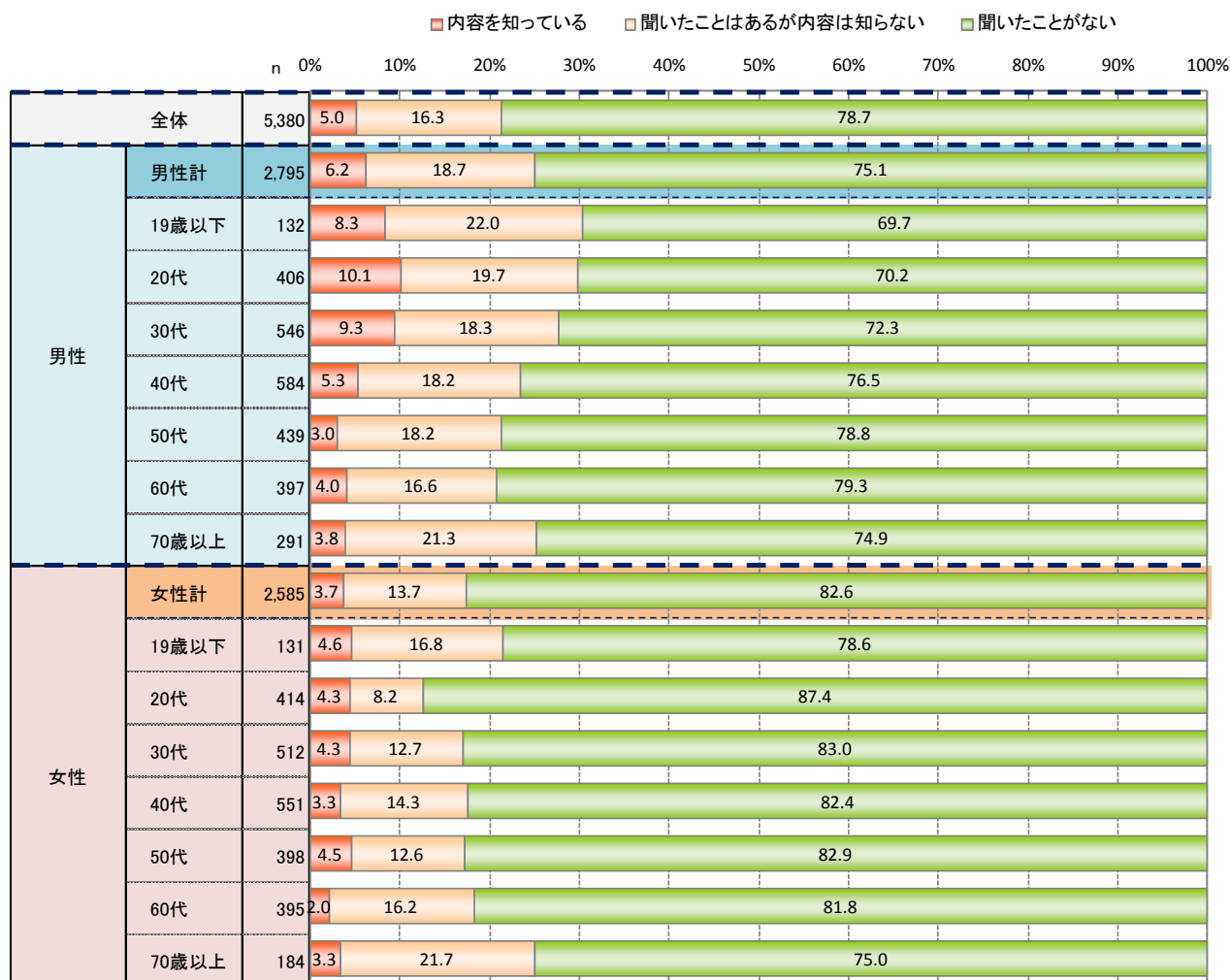
あなたは「全国がん登録」を知っていますか。

【全体】

- 「内容を知っている」はわずか5.0%にすぎず、「聞いたことがあるが内容は知らない」の16.3%を合わせても21.3%と、全体の4分の1未満の認知度である。「聞いたことがない」が78.7%であり、全体の4分の3を超えている。

【性別×年代別】

- 男女別では、「内容を知っている」は、男性が6.2%、女性が3.7%であり、男性の方が2.5ポイント多い。
- 年代別では、「内容を知っている」が10%を超えたのは「男性：20代」のみであり、女性は全ての年代で5%未満である。
- 「聞いたことがない」は、男性では全年代で80%未満であるが、女性では「20代」から「60代」で80%を超えている。



- 13 : 「全国がん登録」について  
(2) 「全国がん登録」に期待すること

**問29.** 全国がん登録を進めることによってあなたは何を期待しますか。

**【回答の選択肢】** (もっとも期待する項目をひとつ選択)

「がん罹患率や生存情報の公開」

「がん検診の実効性の検証」

「がん医療の質の向上」

「地域の実情に合わせたがん医療の普及」

「その他(自由回答)」

**【全体】**

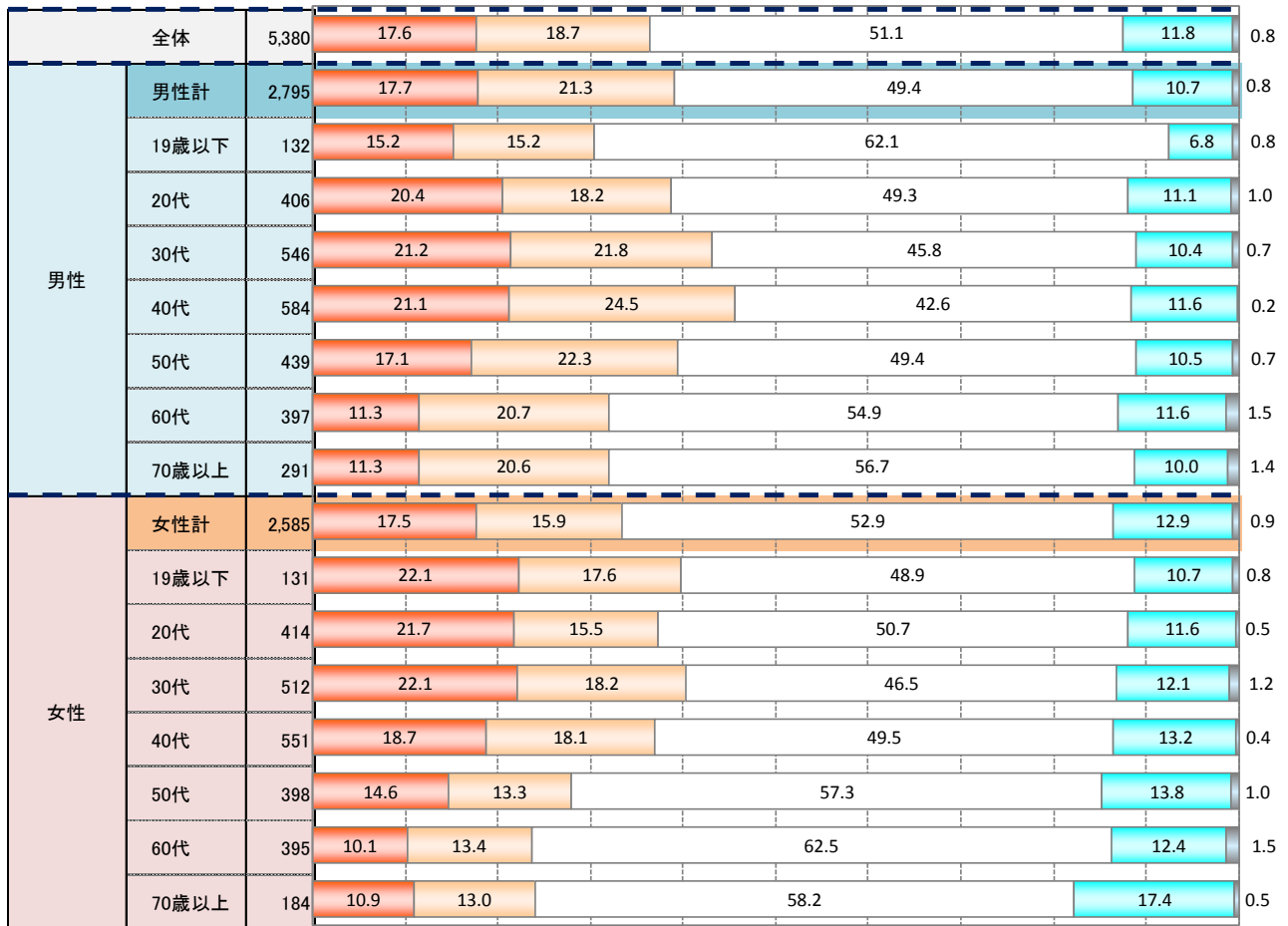
- ・ 「がん医療の質の向上」が51.1%で最も多く、50%を超えている。次いで、「がん検診の実効性の検証」(18.7%)、「がん罹患率や生存情報の公開」(17.6%)、「地域の実情に合わせたがん医療の普及」(11.8%)と続く。

**【性別×年代別】**

- ・ 男女別では、「がん医療の質の向上」は、男性が49.4%、女性が52.9%であり、女性の方が3.5ポイント多い。
- ・ 「がん医療の質の向上」が最も多いのは、「女性：60代」の62.5%であり、次に「男性：19歳以下」の62.1%である。
- ・ 「19歳以下」では「がん医療の質の向上」が、男性は62.1%であるが、女性は48.9%と50%未満であり、男女間で「全国がん登録」による「がん医療の質の向上」への期待度に差がある。

- がん罹患率や生存情報の公開
- がん医療の質の向上
- その他
- がん検診の実効性の検証
- 地域の実情に合わせたがん医療の普及

n 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



#### 14：「がん」に関する自由記述

##### がんに関する自由意見

**問30.** がんに関する予防、早期発見、医療など、がん対策に関する御意見を自由に記載ください。（具体的に記載してください。）

##### 【主な意見】

- ・近年若い世代のがんが増えてきているようなので、職場の検診等だけではなく、高校、大学等でも気軽に検診ができる環境が整えられればより早期発見につながるかと思います。（20代男性）
- ・母親が子宮がんになった事があるので、自分自身もいつかガンになるのではないかという不安負担を抱えています。しかし、具体的なアクションは起こしていないのが現状です。その為、教育や職場の健康診断などで、がんに関する知識を得る機会があると嬉しいです。（20代女性）
- ・私は、定期健診で疑いを提示され、病院で精密検査を受けて、早期発見できました。早期発見できる機会を大事にすることを促すような媒体が広がるとよいと思いました。（30代男性）
- ・早期発見で救われることが多々あると思うので、望んだ時にすぐに検査を受けられる体制を整えることが大切だと思う。（30代女性）
- ・ガンの最新治療方法について、アメリカなどのように早期に保険の対象としてほしい。（40代男性）
- ・定期的な検診（人間ドック含む）が重要だと思うが、会社勤めをしていないと、年一回の検診は現実的に難しいと思っています。（40代女性）
- ・身近にがん経験者がいないので、意識が薄く、すぐに意見は思いつきません。ただただ、医療の発展を願うばかりです。（50代男性）
- ・早期発見できるように気を付けているのに、自分の親のがんの場合、進行が速いがんだったので半年ぐらいでステージ4になってしまった。医師はもっとていねいに慎重に診察してほしい（50代女性）
- ・がんになる原因は漠然とした内容でしか見聞きしていない。予防するならばハッキリとした内容、それを裏付ける統計などのデータは欲しい（60代男性）
- ・身内の半分ががんで亡くなったので、自分にもリスクがあると思うが、罹ったらどうせ治らないと思っている。金銭的な問題もあるし積極的な治療はできないから苦しまないで亡くなるようにしてほしいと常々考えている。（60代女性）
- ・経済的な負担を心配することなく十分な治療が受けられる体制を構築してほしい。（70代男性）
- ・治療費用が多くなり、年金生活ではどうにもならないし、それなら早期死亡を判断できる仕組みを期待する。（70代女性）



付： 調査票（提示調査画面）

## がんに関する調査へのご協力をお願い

各位

東京都では、がん対策基本法に基づき「東京都がん対策推進計画」を策定しており、現行計画の計画期間が平成29年度末で終了することから、平成29年度に計画改定を予定しています。  
計画改定に当たり、がんに関する現状及び今後の課題を把握するため、「東京都がんに関する都民意識調査」を実施することといたしました。  
今回の調査結果を踏まえ、次期計画を検討し、今後の都におけるがん対策につなげてまいります。  
本調査の趣旨をご理解ご賛同の上、ご協力頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。  
また、本調査の回答は、個人が特定されない形で集計し、目的以外に用いることは絶対にございません。集計結果は、後日ホームページに掲載いたします。  
なお、東京都がん対策推進計画及び本調査の実施については、東京都福祉保健局ホームページにも掲載しています。

[東京都福祉保健局ホームページはこちら](#)

東京都福祉保健局

SQ1.

上記のとおり本アンケートは、がんに対する意識等について、お伺いする内容となっております。  
そうした内容に対して、ご不快に感じる方は、無理にご協力いただくなくても構いません。  
モニター規約でもお願いしていますが、本アンケートの内容や情報に関しては、第三者に口外しないようにお願いいたします。（インターネットの掲示板やホームページ等にアップロードすることも含みます。）

(ひとつだけ) 【必須】

- 協力できる
- 協力できない

Q1.

あなたの年齢をお知らせください。

(ひとつだけ) 【必須】

(回答を選択してください) ▾

Q2.

あなたの性別をお知らせください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 男性
- 女性

Q3.

あなたのお住まいをお知らせください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 東京都内
- 東京都外

Q3s2.

問3で「東京都内」と回答された方にお聞きします。  
お住いの区市町村はどこですか。

(ひとつだけ) 【必須】

(回答を選択してください) ▾

Q4.

あなた自身はこれまで、「がん」になられたことがありますか。

(ひとつだけ) 【必須】

- ある
- ない

Q5.

あなたの周りで「がん」になられた方がいますか(いましたか)。

(ひとつだけ) 【必須】

- いる
- いない

Q5s2.

問5で「いる」と回答された方にお聞きします。

その「がんと診断された方」とあなたとの関係は何ですか。

(いくつでも) 【必須】

- 配偶者
- 両親
- 兄弟(姉妹)
- 祖父母
- 子ども
- その他の親戚
- 友人、同僚
- その他

Q6.

「がん」について、あなたのお考えを聞かせ下さい。



(横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	すごく細い	多少細い	あまり思わない	思わない
がんは治る病気である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
がんの痛みは取り除くことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分はがんにならないと思っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
多くのがんは早期発見により治療が可能である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
がんにならないためには生活習慣の改善が重要である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
がんになっても治療しながら働くことは可能である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
がんの治療には高額な医療費がかかる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q7.

「がん」に関する次のことについて、知っていますか。



(横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	知っている	知らない
日本人のおおよそ二人に一人ががんになる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
がんになる人は高齢になるほど増加する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
若い世代では男性より女性のほうががんになる人が多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
がんの治療方法は手術以外にもある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q8.

あなたが「がん」の原因と思う項目を3つ選択してください。

(3つ選択) 【必須】

- たばこ
- 添加物や農薬
- 環境ホルモン
- 大気汚染
- 細菌・ウイルス
- かたよった食生活
- 運動不足
- 肥満
- 職場での有害物質（アスベスト等）接触
- 飲酒
- ストレス
- 遺伝

Q9.

あなたが「がん」の危険性を高めると思う項目を3つ選択してください。

(3つ選択) 【必須】

- たばこを吸う習慣があること
- 他人のたばこの煙を吸うこと（受動喫煙）
- 野菜・果物の摂取が不足すること
- お酒を飲みすぎること
- 塩分を摂り過ぎること
- 飲食物を熱い状態で摂ること
- 赤肉（牛・豚の肉）や保存・加工肉を摂り過ぎること
- 運動不足であること
- 太り過ぎや痩せすぎること
- 肝炎ウイルスやヒトパピローマウイルス、ヘリコバクターピロリ菌に感染すること
- 放射線に被曝すること